

国際連合事務総長
世界自閉症啓発デーへのメッセージ（仮訳）

（東京， 2011年4月2日）

細川律夫厚生労働大臣閣下
蓮舫内閣府特命担当大臣閣下
高木義明文部科学大臣閣下
当事者・支援関係者の皆様

まず初めに、先月日本を襲った災害から復興されている、日本政府及び日本の皆様に対する私の連帯感を表明いたします。

世界自閉症啓発デーがこのように記念されることは、日本が、過去数週間におきた痛ましい出来事にもかかわらず、この重要な問題に関して取組を進めていることの証しです。

皆様は、自閉症の人々に配慮するからこそ、本日のこの日に思いを一つにしておられます。その人々の直面する課題を理解しておられます。そしてその解決方法を見いだす決意をされています。

これは国連にとって非常に重要な問題です。そして、個人的なことを申し上げれば、私の家族にとっても重要です。私の妻は、自閉症啓発のための国連アドボケートの一人です。私は、彼女の活動を誇りに思い、私自身も皆様にご挨拶できるこの機会に感謝しております。

我々の共通のゴールは、普遍的な人権を、自閉症の子どもと人々を含む、障害を持つ人々にとって、現実のものとすることです。

自閉症の人々は、しばしば、そのニーズに対して十分な支援を得られず、差別に耐え、さらに虐待を受けることさえあります。これは看過できることではありません。自閉症の人々は、最大の敬意と配慮を受けるに値します。これは倫理的な義務です。そして、我々が共有する社会に対して、彼らが最大限に貢献できるようにする最良の方法なのです。

世界自閉症啓発デーは、関係する全ての人々に手をさしのべ、より包容し（inclusive）配慮する（caring）世界をつくるための、重要な機会です。

この取組は、我々全てを豊かにするものとなるでしょう。自閉症の子どもを持つひとりの母親が言いました。「私の娘は長い道のりを歩いてきたが、私も長い道のりを歩いた。」我々はともに、普遍的な人権を実現し、自閉症の子どもと人々のもつ大きな可能性を実現する道を、歩もうではありませんか。

（了）